

『乗って残そう！別所線』～別所線再生支援の取り組み～

長野県上田市

上田市について

上田市は、平成 18 年 3 月 6 日に上田市、丸子町、真田町、武石村が新設合併して誕生した、人口 16 万人を擁する長野県東部の中核都市です。北は上信越高原国立公園の菅平高原、南は八ヶ岳中信高原国立公園に指定されている美ヶ原高原などの 2,000 メートル級の山々に囲まれています。また中央には千曲川が流れ、緑溢れる森林・里山と清らかな水の流れる川に育まれた自然豊かな地域です。

奈良時代から、京都と東北地方を結ぶ「東山道」の拠点として栄え、交通の要衝でしたが、現在は新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線が上田駅で接続し、上信越自動車道上田菅平インターチェンジがあります。東京から約 190 キロメートル、長野新幹線を利用すれば 1 時間 15 分です。

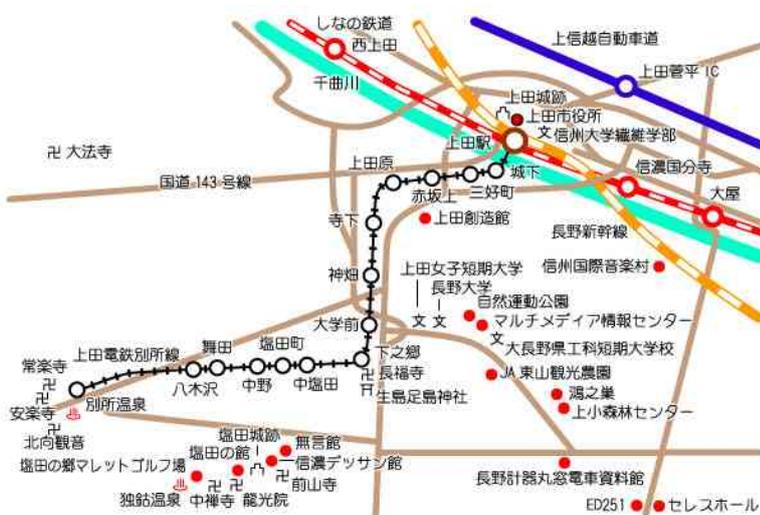
上田地域の歴史は古く、国分寺、国分尼寺が建立され、鎌倉時代に入ると、幕府の信濃守護職、北条氏が塩田に居を構え、三代 60 年に渡り鎌倉の仏教文化を花咲かせました。この塩田平は『信州の鎌倉』といわれ、安楽寺の日本で唯一の国宝・八角三重塔をはじめ、多くの歴史的建造物、史跡が残されています。

また戦国時代、真田氏は武勇に優れた智将として全国にその名を轟かせました。1583 年に上田城を築いた真田昌幸は、徳川軍の侵攻を二度にわたって退けました。さらに、その後の大阪冬・夏の陣での真田幸村らの活躍は、今も城下町上田の誇りとして、市民の心に深く刻まれています。

別所線は上田市の南西部に広がる「塩田平」の別所温泉と上田駅 11.6Km をおよそ 30 分で結ぶローカル線です。沿線には、文化財が多く点在し、田園風景がひろがる地区をのどかに運行しています。

別所線の開業は大正 10 年ですが、千曲川をわたる橋梁が完成し、上田駅まで直接運行が可能になったのは大正 13 年です。かつて、この上田盆地には、縦横無尽に鉄路が張り巡らされ、北は真田、南は丸子、西は青木村と、5 つの路線、全長 57.2 キロメートルにも及びました。そうした鉄路も、モーターレーゼーションの波に押され、ついに別所線 11.6 キロメートルを残すのみとなってしまいました。

別所線存続に向けて - 公的支援の実施 -



平成 12 年と翌 13 年に京福電鉄越前本線で相次いで発生した列車衝突事故を契機に、国は安全性緊急評価事業の実施を決定しました。別所線においても、この安全性緊急評価により、改善を求められたことに起因する、安全で安定的な運行を図るための多額の設備投資が必要となったことから、平成 14 年 10 月に上田交通株式会社から公的支援について市に対し陳情書が提出されました。

これを受けて市は、平成 15 年に市長を本部長とする「緊急対策本部」を設置し検討を行い、鉄道事業が地域の公共交通機関として生活者の利便はもと

より、産業、環境、文化面でも大きな役割を担っているという事実及び安全性緊急評価で指摘された施設の安全整備を集中的に対応する必要があるという認識に立ち、平成 16 年 12 月に安全対策を核とした上田市としての公的支援を決定しました。

そして上田交通株式会社（現上田電鉄株式会社）と、10 年間の設備投資計画のうち、緊急性のある事項について、当面 3 年間（平成 16 年～18 年度）の運行協定を締結し別所線の継続的な運行を実

現するため、安全対策のための設備投資を中心とした支援を行ってきました。

【具体的な内容】『安全対策関連事業費補助』として、国県市で協調補助を行っている「鉄道軌道近代化設備整備費補助金」（現在の鉄道軌道輸送高度化事業費補助金）の市独自のかさ上げ補助、安全対策のためのその他設備投資及び修繕費全額補助。『運行経費補助』として鉄軌道用地に係る固定資産税相当額・都市計画税相当額及び償却資産のうち構築物に係る固定資産税相当額を補助。

その後も引き続き、平成 19 年度から平成 21 年度までの 3 年間を協定期間とした新たな運行協定を上田電鉄と締結し、国及び県と協調を図りながら安全対策のための設備投資を中心とした支援を継続しています。

別所線再生支援協議会を中心とした利用促進策の推進

平成 17 年 2 月には関係する 25 団体により別所線再生支援協議会が設立され、5 年間にわたる「別所線再生計画」が策定されました。同年 6 月には国から再生計画の承認を受け、国及び県の近代化補助の集中支援を受けながら、鉄道機能向上のための整備や、事業者・地域の住民と一体となった「乗って残そう」をキーワードとした利用促進策に取り組んでいます。



画家の原田泰治先生デザインによるラッピング車両『自然と友だち 1号』（平成 20 年 10 月 4日運行開始）

再生支援協議会の参画団体のひとつで、別所線沿線の自治会を中心に構成する「別所線電車存続期成同盟会」では、自治会回数券の販売斡旋、利用促進シンポジウムや写真撮影会などの利用促進イベントの開催、舞田駅、中野駅にパークアンドライド駐車場の整備など、関係団体と連携をとりながら利用促進のための活動に積極的に取り組んでいます。このほか、貸切電車によるコンサート、別所線を利用したカラオケ大会、ウォーキングイベント、トレインパフォーマンスなど住民が主体となった利用促進活動も多く展開されています。

平成 20 年度には、「地域公共交通活性化・再生総合事業」として国の支援をいただき、画家の原田泰治先生デザインによる別所線の車両ラッピングを行い、10月4日から運行を開始いたしました。



割安な「自治会回数券」を沿線自治会住民に販売あっせん（別所線電車存続期成同盟会）



利用促進チラシを作成し沿線大学、市内高校、企業等に配布【裏面に別所線時刻表を掲載】



別所線写真撮影会開催



保育園児による駅舎清掃



駅長による車内ハーモニカ演奏



車両貸し切りライブ開催（住民グループが企画）



「トレインパフォーマンス」（住民グループが企画）



乗車証明書の配布開始（上田駅構内で配布し、終点の別所温泉駅でスタンプ押印）



沿線自治会等が主体となり自らの手でパーク & ライド駐車場を整備（中野駅 5分）

別所温泉 あいそめの湯

別所温泉駅前に移転した日帰り温泉施設のオープンに併せ別所線往復乗車券と入浴券をセットにしたお得なきっぷを発売。



応援メッセージ

原田 泰治

沿線の人々や、心ある人々が別所線を支えている。その一つとして絵本も発売された。— そんな小さな運動が、別所線を生き返らせる。

さだまさし

旅人の勝手な願いを言うなら、あの風情ある別所線をどうにか存続したいものだ。と願う。頑張れ別所線。「ふるさと」を永遠に走り続けてほしい。

絵本「別所線の電車に乗って」発売。（画家の原田泰治先生と、歌手のさだまさしさんから応援メッセージをいただきました）

平成 19 年度別所線の輸送実績

別所線再生支援協議会を中心とした利用促進活動などの成果もあり、平成 19 年度の輸送人員は、10年ぶりに増加に転じた平成 18年度に引き続き、2年連続の増加となりました。これは、「別所線再生計画」の目標を上回る実績となりました。

平成 19 年度輸送人員 1,249,425人 対前年比 +11,197人 +0.9%

平成 18 年度に引き続き 2 年連続の増加

輸送人員の推移



『平成 20 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰』受賞

別所線再生支援協議会が行ってきた、別所線存続支援及び利用促進の取り組みが、「鉄道等の利用促進に努め利用者の増加に繋げるなど公共交通機関の利用促進を通じた環境保全に関する活動に積極的に取り組んだ」として、『平成 20 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰』を受賞いたしました。



授賞式では、別所線再生支援協議会を代表して母袋創一上田市長が金子一義国土交通大臣から表彰を受けました。

【12月11日国土交通大臣室】



別所線再生支援の取り組みや経過などは、上田市ホームページ内『別所線にのろう』でご覧いただけます。 <http://www.city.ueda.nagano.jp/hp/iro/index.html>

上田市都市建設部地域交通政策課